

# 魅

せまですー！活き湧く

地域資源

## 画期的な練製品開発へのチャレンジ 〜じゃこ天のすり身製造技術を活用した「ドライフーズ」の開発〜

独立行政法人中小企業基盤整備機構 四国地域活性化支援事務局

PM 木村惣一郎

### ●事業化に至ったきっかけ

愛媛県八幡浜地区は四国でも屈指の「魚の町」。八水蒲鉾株式会社は長年じゃこ天などの練り製品を製造販売してきた。しかし近年、魚肉練り製品は、若年層の魚離れ等の影響で需要の減退、量販店間の価格競争の激化、原材料費や燃料費の高騰によって市場環境は厳しい状況となっている。

しかし企業として継続的發展を目指すため、より高度な加工技術の確立やこれまでと違った市場開拓に向けて、当社は平成18年から魚肉のレトルト食品及びドライフーズ製品の開発に着手した。同時に効率的生産体制の確立や衛生面での向上を図るために平成18年11月に新工場が完成し本社機能を移転し、また工場の移転を機に新たな設備機器の導入による自動化や危険度分析による衛生管理（HACCP）にも対応できるようになった。



会社概観

本事業への着手のきっかけは、新工場完成による生産体制の確立を受け、新たな市場開拓に向けて、魚肉練り製品のフリーズドライ（凍結乾燥）技術やレトルト食品技術による商品開発を愛媛県工業技術センターや愛媛大学医学部に委託したことからはじまった。「無理だ」というおほかたの予想に反し、商品化が可能な成果報告を受けて、事業化に向けて

本格的にスタートを切ったのである。

### ●事業計画作成における苦労 ＆今だから言える話

新事業推進の中心的役割を担当されたのが専務取締役 橋本修氏である。橋本専務との初めての出会いは平成19年11月。愛媛県中小企業団体中央会のサポート案件として当時の担当課長の杉村氏の紹介を受け、事業ヒアリングを行った。事業のテーマは「練り製品のフリーズドライ製法による商品化」。自社で装置を保有し一貫生産を行うものであるが、装置導入に関し大きな投資が必要であり、事業評価において財務評価や事業遂行に関する可能性を示唆する根拠が必要であった。

その後、何度か橋本専務と協議を重ね事業計画のブラッシュアップを実施したが、特許技術や製法に関する契約等の問題もあり、地域資源認定申請書作成において事業化のプロセスや評価委員会での

説明時における表現に苦労をした。また、本事業を推進するにあたり、社内でのコンセンサスを得るためにかなりのご苦労があったようだ。「なんで今更」「魚肉のドライフーズ化なんて無理だ」「専務の道楽」などといった批判の中で、事業化に向けて強い意思を持って取組む橋本専務の姿勢が、認定に繋がった大きな要因のひとつと言えるであろう。

### ●課題をどう乗り越えたか

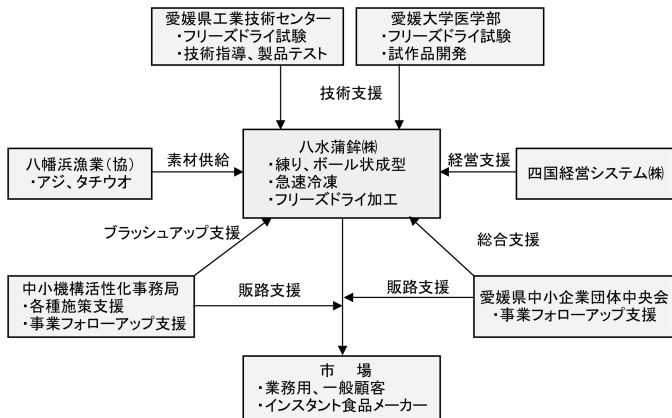
当社が事業化を目指した「練り製品のフリーズドライ製法による商品化」とはインスタント麺・スープ・味噌汁など向けのフリーズドライによる業務用加工食品の開発・生産・販売である。

魚肉練り製品のフリーズドライ製法はこれまで確立されておらず、当社が初めての取組みであった。本事業において、技術開発における事前の研究開発支援を行った愛媛県工業技術センターや愛媛大学医学部の役割は大きく、これらの支援が無ければ製法の実現もなかった。今回の取組みは産学官連携による取組みのモデルであり、公的研究機関の活用によって技術的課題が克服できたとと言える。今後は、これまでの技術的課題を克服したことによって事業化に向けて推進して行く予定である。

### ●実際の事業化に至るまでの苦労 （資金調達・販路開拓等）

当社は現在、1日に「じゃこ天」約8万枚、「じゃこ天」などの揚げ物を約6

### 事業支援体制



八水蒲鉾が製造する製品は多種多様。四国内はもとより西は九州から東は関東まで販路を拡大している。



最新機器の導入で衛生的で効率的に練製品を生み出しています

万枚、蒲鉾を約3万枚、ちくわを約10万本生産し、県内ではトップシェアを誇っている。商品の約60%は県内スーパー向けだが、「じゃこ天」は関東地方の小学校の給食に採用されたり、全国展開の外食チェーン店でも使用されている。しかし、地方所在の練り製品メーカーとしてその認知度も低くブランド力も無い。今般の取組みについても社内コンセンサスを得るまでの紆余曲折を経て現在に至っている。決して順風満帆だったのではないのである。

まず、「魚肉ドライフーズ」を全国のカップ麺具材として当社の収益の柱になることを目的として事業化を推進していく。ただ、試作品としては成功したが量産化によって品質の低下や製品の均一化が維持できるかが課題である。また、冷凍機や真空凍結乾燥機などの新規設備機器の設置による過大な設備投資が必要となり大きなリスクを抱えることとなる。

### ●認定を受けたときの喜び

地域産業資源申請の担当者である八水蒲鉾(株) 橋本専務のコメントである。「地域資源認定は相当にハードルが高いと聞いていましたが、事前の調査研究

や各支援機関との連携による取組み、また試作品や市場性において高い評価を得られ認定を受けられたことで、これまでの苦労が報われた気持ちで一杯でした。これも愛媛県中小企業団体中央会を始めとする各支援機関の熱心な指導並びに支援によるものであり、また中小機構支援事務局のバックアップによってなした成果と感謝いたしております。ただ、認定を受けたことがゴールではなく、新たなチャレンジへのスタートだと認識し、これからは成果を出すことが最終目的であるとの意識を持って事業計画の推進に全社挙げて取組んで行きたいと考えています」

### ●成功秘訣

「事業はスタートを切ったところであり、本来の求める成功(成果)は先の話ですが、ただ現時点でこれまでの課題を解決でき、なお且つ認定を受け新たなスタートを切れたことは当社にとって有意義なことであり、今後表れてくるだろう新たな試練や苦労に対し強い気持ちで対処できる自信となり当社にとって大きな財産となりました。モノ創りは人と人との出会いの中でいかに重要な話ができるか?また、その話をいかに自分への課題として受け止めることができるか?そのうえにどうチャレンジしていくか?ただ考えるだけでは新商品なんてできません。自分がワクワクする仕事や話は相手には理解していただけるという事だと思います」

### ●P.M.I.N.T

今回の八水蒲鉾(株)の地域資源活用プログラムへの取り組みは、社長を筆頭に専務がリーダーシップを発揮し、地域の素材(八幡浜産鮮魚100%)を活用し、産学官連携で研究開発を実施し、地方から全国へ販路を求めるといった本法の趣旨に合致するものであり、その取組みの手法は評価できる。今後は、新たな市場開拓に向けて全社を挙げて推進し、本法のモデル事業として全国区となることを期待したい。

### 企業概要

- ・名称 八水蒲鉾株式会社
- ・資本金 3,069万円
- ・住所 愛媛県八幡浜市保内町 川之石1-242-4
- ・従業員数 143名
- ・代表者名 代表取締役 鈴木 學
- ・連絡先 専務取締役 橋本 修 (0894-36-3500)



鈴木學社長